

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1	家族と社会生活 自分が家族を形成したらという観点から、家族について考え話し合う活動を通して、単元を貫く課題である私たちは家族や社会とどのようにかわかっていくべきか、男女共同参画社会の実現に向けての基本的な考え方を理解したうえで、自分の考えを持つことができる。	1 資料「未来の家庭シミュレーション」の作業学習で、自分が家族を形成したらという観点から将来の問題について話し合う。 ・ 結婚したら姓、家事、仕事はどうするか。 ・ 親になったら子どもに対してどうするのか。 2 資料「男は外で働き、女は家を守る」を参考にして、わが国と諸外国の意識を比較して考える。 ・ 男は外で働き、女は家を守るべきだろうか。 《単元を貫く課題》 私たちは家族や社会とどのようにかわかっていくべきか。 3 男女共同参画社会基本法を活用し、男女の区別なく個人として能力を生かすことができる社会づくりについて考え、自分の考えをまとめる。	アー 家族の問題を自らの思いをもとに発表している。 場面 「学習活動1の直後」 (方法)「発言内容」 現在や将来の自分の家族を描いて自らの問題としているか分析する。 エー 男女共同参画社会の実現に向けての基本的な考え方を理解している。 (場面) 「授業後」 (方法) 「ノートの記述」 男女共同参画社会基本法の考え方が書かれているか分析する。	「未来の家庭シミュレーション」 「男は外で働き、は家を守る」 男女共同参画社会基本法 (以上、教科書) 援助 ・ キーワードや難解な語句の意味について補足し、事実認識を援助する。 ・ 仲間の発言内容についての思いを述べることを指導する。
		男性も女性も協力していくことが、家庭を温めていくことにつながり、また男女の区別なく、それぞれの能力を生かせる社会にしていけることが大切である。自分自身は、どのように家族や社会とかわかっていったらいいのだろうか。		
2	家族の役割 家族がそろって朝食の食卓を囲む家庭が激減している事実を知り、家族はどんな役割をもっているのか話し合う活動を通して、多様化する家族がかかえる現代家族の問題点について、自分の考えを持つことができる。	1 資料「ある家族の食卓」から、家族がそろって朝食の食卓を囲む家庭が激減していることを知り、ばらばらの現代家族の食卓について、自分の家庭と比べながら考える。 ・ どうして食べている時間も、食べているものもばらばらなのだろう。 家族はどんな役割をもっているのだろう。 2 資料「人の一生」を参考に、自分が生まれてから、家族とどんな関わり合いを持ってきたか、意見を発表し合う。 ・ はたして家族とは何だろうか。 ・ 現代の家族は、家族のはたらきを果たしているだろうか。 3 資料「家族類型別世帯数の推移」を参考に、多様化する家族がかかえる現代家族の問題点について、自分の考えをまとめる。	ウー 統計資料や写真資料を活用しながら、現代家族の問題について、自分の考えをまとめている。 (場面) 「授業後」 (方法) 「ノートの記述」 核家族世帯の増加、少子高齢化が進むなどの社会の変化にかかわって、現代家族の問題が書かれているか分析する。	「ある家族の食卓」 (暮らしの手帳) 「人の一生」 (東京書籍資料) 「家族類型別世帯数の推移」 (教科書) 援助 ・ 前時の男女共同参画社会の実現に向けての考え方を振りかえるように指導する。
		核家族世帯の増加、少子高齢化が進むなどの社会の変化にともない現代の家族は、家族としてはたらきを果たすことができなくなっている。家族を、私たちにあって安らぎの場にするためにも、私自身も温かい家庭をつくれるように協力したい。		
3	わたしたちと社会生活 社会には様々なルールがあることを知り、どうして社会には様々なルールがあるのか、社会におけるルールの必要性について話し合う活動を通して、社会生活を円滑にするために、互いの合意に基づいてルールがつけられていることを理解し、社会的なルールの大切さについて自分なりに考察することができる。	1 資料「スーパーに置かれたりサイクル用の資源ごみ回収箱」を参考に、社会の様々なルールを发表する。 ・ ごみの種類によって出す日が決まっている。 ・ 交通規則がある。 どうして社会には様々なルールがあるのだろう。 2 社会におけるルールの必要性について考える。 ・ 勝手なことをする人が出て社会が乱れる。 ・ 社会的に弱い立場の人が悲しい思いをする。 3 資料「あなたは優先座席に賛成？反対？」を通して話し合い、社会のルールを守ることの大切さや人と人を結びつける社会的なルールの必要性について、自分の考えをまとめる。	イー 社会におけるルールの必要性について、人と人を結びつける観点から、その大切さについて考察している。 (場面) 「授業後」 (方法) 「ノートの記述」 社会生活を円滑にするために互いの合意に基づいてルールがつけられていることが書かれているか分析する。	「スーパーに置かれたりサイクル用の資源ごみ回収箱」 「あなたは優先座席に賛成？反対？」 (教科書) 援助 ・ 公共の場での喫煙、携帯電話の使用など迷惑行為について補足し、ルールについて深く考えるように指導する。
		人と人を結びつけるためにも、集団生活ではルールが必要である。私たちは、よりよい社会生活を送るためにも、お互いが責任をもってルールをつくり、それをきちんと守っていくことが大切である。		